

北海道・東北ブロック大会

秋田県リーダー 代表 矢部太陽

テーマ

「リーダーの基礎を学ぶ～子どもたちを知る～」

～テーマ設定の理由～

スポーツ少年団のリーダーとして、基礎となる子どもとの関わり方を学ぶことで子どもへの理解が深まり、よりよいリーダー会活動が行えるようになると思ったから。

○ 期日

平成29年10月7日(土)～平成29年10月9日(月)

○ 場所

秋田県青少年交流センター ユースパル (秋田県)

■ 参加対象

リーダー ／ 育成担当指導者

■ 参加者内訳

	北海道	山形県	福島県	宮城県	秋田県	合計
リーダー	1名	2名	3名	2名	7名	15名
育成担当 指導者	1名	1名	1名	1名	1名	5名
合計	2名	3名	4名	3名	8名	20名

■ 経費

参加料：50,000円 交通費：道・県庁所在地～秋田駅までの片道分

■ 運営スタッフの体制・運営方法

運営スタッフ：秋田県リーダー・運営指導者・事務局

運営方法：運営指導者のバックアップのもと、リーダー主体に運営

○ 日程

1日目：10月7日(土)

14:00～ 受付
14:30～ 開会式
15:00～ 活動報告
16:00～ 講習①
「コミュニケーション講座」
17:00～ 講習②
「リーダーの自分ってどんな人？」
18:00～ 夕食
19:00～ 講習③
「ACPを活用した子ども体操」

2日目：10月8日(日)

7:00～ 朝の集い
7:30～ 朝食
9:00～ 講習④
「円滑な話し合いの進め方」
10:00～ 実技①〈計画〉
「子どもを動かす・子どもと話す」
12:00～ 昼食
13:00～ 実技②〈実践〉
「子どもを動かす・子どもと話す」
16:00～ 反省・評価
18:00～ 夕食
19:00～ ディスカッション①

3日目：10月9日(月)

7:00～ 朝の集い
7:30～ 朝食
8:30～ 荷物整理
9:00～ ディスカッションⅡ
17:00～ 講習②
18:00～ 夕食
19:00～ 講習③

講習①

「コミュニケーション講座～話を引き出すコツ」

秋田県リーダー 梶原 陸央

- 話を引き出す際のコツ(共感・同調等)を聞いてから、実際にグループを作り、身近なテーマをもとに話をしてみることで、話を引き出すために必要なことを体感することができていた。しかし、実際に子どもたちと話をしたり、話し合いのときには自分の興味のある話題ではないこともあるので、その際にきちんと話を引き出すことができるかが大事だと思うので、コツをうまく生かしながら、コミュニケーションをとっていければよいと思った。



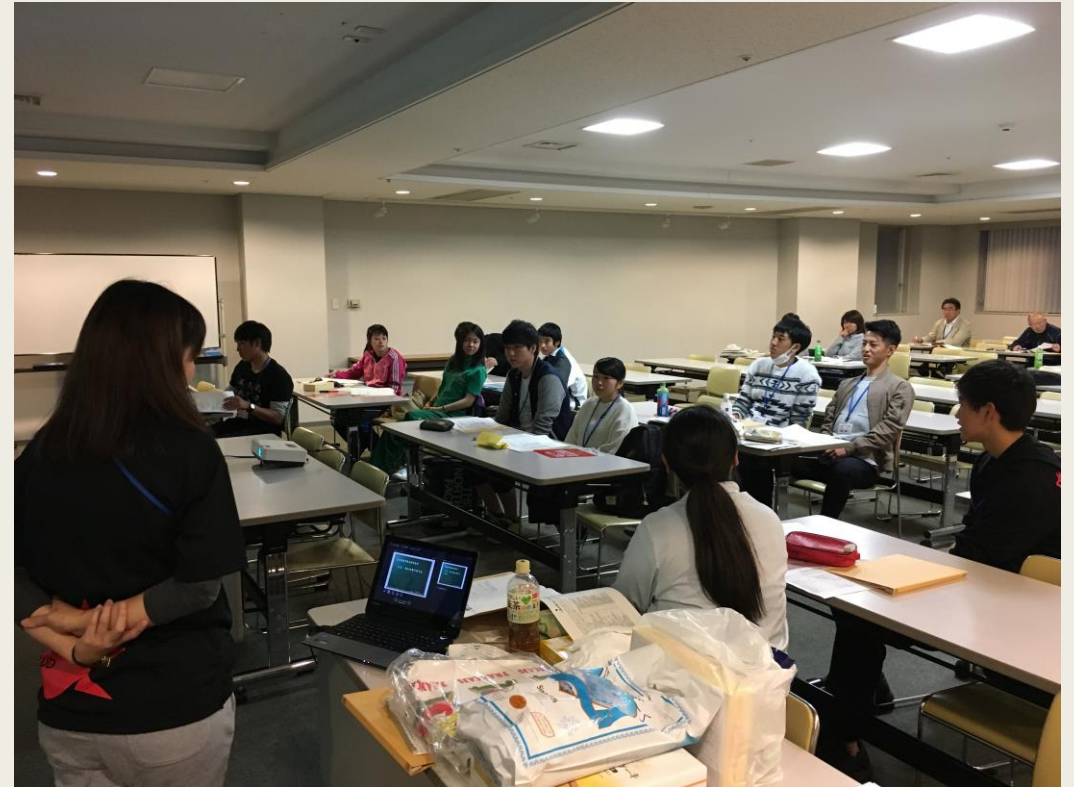
講習②

「リーダーの自分ってどんな人？」

秋田県リーダー

金子 瑞穂

- 「エゴグラム」を活用し、自分がどんなタイプの人か、他のタイプの人とどのように関わっていけばよいのかというのを学ぶことができた。実際の体験などをもとに、子どもへどのような対応をするかということも、タイプごとに違うということもわかり、楽しんで学べた。自分の性格を知ること、相手にどのように関わっていけばいいのかという参考にもなったのでよかった。



講習③

「ACPを活用した子ども体操」

秋田県リーダー会 指導者

小畑 治隆

- 現在の子どもの運動状況などを把握しながら、実際に体を動かしながら学ぶことができた。
- 身体のどの部分が鍛えることができるのか、体力向上できるのかというのを楽しみながら学ぶ事ができただけでなく、どのように子どもたちに教えていけばいいのかということも知ることができた。



実技①・②

「子どもを動かす・子どもと話す」計画・実践

- リーダースクールを想定して、グループごとに各活動の活動内容を考えた。その際に、活動で起こりうる子どもの行動を考え、どのようにリーダーは対処するかというのも一緒に考えることができた。対処の仕方や活動内容に関しても、指導者の先生や、参加者側のリーダーから評価をしてもらうことで、今後の活動をするときの参考になるのではと思った。反省点としては、実際に子どもを相手にしたわけではなかったので、このような実技を行うときは、実際に子どもを相手に行えたらよかったと感じた。



ディスカッションⅠ

「リーダーについて考える」

- 若手リーダーから、リーダーをしていて困ったことや疑問に思ったことを聞いたり、逆にベテランリーダーが疑問などに思っていることを若手に聞き、お互いに疑問点等について教えあうことができた。
- ベテランリーダーも、自分たちが経験を積んだからこそ見えなくなっていたところを若手リーダーから気づかせてもらうこともでき、よいディスカッションをすることができていた。ただ、話が盛り上がってきたところで、ディスカッションが終わってしまったのが残念だった。



ディスカッションⅡ

「まとめと方向性」

- 今大会のプログラムなどを参考に、次回の大会ではどのようなことをプログラムに取り入れていけばよいかということ話し合えた。他にも、自分たちが大会を通して何を学んでいきたいかも聞くことで、次回の大会でやるべきことが見えてきたのではないかと感じる。
- 実際に経験をしてみたり、経験のある人から話を聞くということが、今後のリーダー会活動において大切になってきそうだった。



大会の成果・反省・課題

■ 成果

今大会のテーマでもある「子ども」について考えを深めることができた。講義やリーダー同士の話し合いの中で、どのような子どもがいて、その子どもに対し、どんな対応をしたらよいのかというのを、考え実践し評価してもらったことで、より子どもへの理解が深められていたように感じた。

しかし、子どもの行動や気持ちは一人ひとり違うので、そのことも理解したうえで、今後の活動のときに各々生かしていったほしい。

■ 反省

実技で実際に子どもを対象にできなかったのが残念だった。ディスカッションなども臨機応変に話す内容を変えたりすることなどできたのはよかったが、もう少し事前に話の内容や進め方を煮詰めておけば、もっと今後の課題などについて話し合うことができたのではないかと思った。

■ 課題

プログラム内容によっては実際に子どもを相手に活動をする。

ディスカッションで話し合う内容や、話し合いでの最終的なゴールなどを明確にする。

■ 昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい活かされたか

全国リーダー連絡会で情報交換をしたことで、現在北海道・東北のリーダーにかけている部分や資質向上を踏まえた内容になるように、話し合いを重ねプログラムを作成することができた。